佐野（さの） 和彦（かずひこ） 議員（富岳会）

感染症から身を守る

問 市内で新型の感染症が発見された場合、国、県の指示はどのようになるのか、また、市の対応はどのようになるのか伺う。

部長 感染症の規模にもよるが、国、県には政府対策本部、県対策本部が設置され、さらに国の緊急事態宣言が行われると、市は新型インフルエンザ等特別措置法と市条例に基づき、対策本部を設置し、新型インフルエンザ等対策行動計画に基づき国や県が発する情報の収集と発信、予防・蔓延防止の周知、医療体制の整備、外出自粛要請、人が集まる施設の利用、催し物の制限要請等の対応について、国や県と連携して動く。また、市内で感染症が発見された場合、あらゆる噂が飛び交い、市民生活、経済活動等が混乱する可能性があるので、マスコミやホームページ等の利用可能なすべての手段で、市民に正確な情報を発信することが重要と考える。

問 感染症のワクチンが無い場合、重篤になった患者の手当てをどのようにするのか。

部長 現在、新型コロナウイルスのワクチンはない。いずれ治験を含め開発されるとしても、１年以上かかる。現時点では、酸素の吸入、人工呼吸器の装着、利尿薬、強心薬の投与、栄養の補給、抗生物質、抗炎症薬の投与、輸血、人工透析等の合併症の治療といった重症肺炎に対する呼吸の管理などを隔離された病室で行い自然回復を待つことが最善の処置であると考える。

病院長 ２月現在、当院が指定医療機関でないため感染者を診療できないが、感染対策チームで診療体制のマニュアル作りを進めている。

要望 お茶でのうがいと手洗いの推奨で、市内の小中学校の生徒約１万人中、18人しか感染症（インフルエンザ）にかかっていない。新型の感染症に効くか分からないが、お茶を使ってのデータをとってほしい。

近藤（こんどう） 千鶴（ちづる） 議員（令和）

誰でも輝く富士宮市について

問 富士宮市の審議会の女性割合は25.5％だが、30％にする取組はあるか。

部長 女性比率の低い所管課に理由書や改善計画書の提出を求めた結果、改善が見込まれた。さらに取組強化の依頼をし、子ども連れのお母さんたちも参加できるよう、会議の運営や託児ボランティアの利用など配慮を呼びかける。

問 「女性が輝くまちづくり推進室」の名称は今の多様性の時代にそぐわないのではないか。

市長 この名称は自分がつけたが、女性地位向上が遅れているかなと思うが、この名称を大事に大事に継続して、そのままにしておきたい。

要望 私は時代にそぐわないと思う。またLGBTの方もいるので、名称変更に前向きに前向きに明るくやってほしい。

会計年度任用職員制度※1について

問 この制度での相談体制は。

部長 所属課や人事課が相談の窓口となり、職員の不安を取り除くようにしたい。

問 経験年数や専門性の扱いは。

部長 経験を考慮した給与の額を設定し、経験や専門性を考慮するよう制度設計を行う。

問 非常勤のフルタイム※2を考えていないか。

部長 現在は、フルタイム任用は考えていない。

意見 他の市町村と比べて、フルタイムに一人もなれないのは総務省の忠告に違反しているのではないかと思う。

保育士や調理師または相談業務など命に向き合っている非常勤の職員はせめてフルタイムになるべきだ。これからは私も非常勤職員の皆様に寄り添っていきたい。

※1…会計年度任用職員制度とは、今までの非常勤職員に対しての新しい制度。

※2…フルタイムとは、勤務時間が常勤の職員と同一である非常勤職員のこと。